

3年理型・文型クラス 最終成果発表会

1 目的

自身が関心のある分野について、社会課題に関する研究成果を文理の枠を越えて発表し共有していくことで、進路選択における自分の考えを整理し、キャリア設定における新たな視点・考え方を学ぶ。

2 概要

高校3年間の課題研究の集大成として、グループで学問分野の探究活動を実施した。ゼミ内での発表会后、代表グループによる最終成果発表会を3年2組～7組の生徒で行った。

(1) 対象

【発表】3年2組～7組のゼミ代表グループ

【聴講】3年2組～7組生徒・本校職員

(2) 会場

翠巒会館ホール

(3) 日程

今年度は令和7年7月2日(水)に実施した

15時15分～開会

15時18分～課題研究成果発表

16時00分～閉会 ※評価・コメント入力

(4) 方法

プレゼンテーション4分、入れ替え1分

(5) 発表テーマ

代表班	代表班研究分野
2 4	機械工学・半導体工学
3 5	情報工学・データサイエンス学
4 4	教育学
5 3	社会学
6 4	社会学
7 2	経済学・経営学・商学
1 0 5	農学・獣医学
2 0 4	建築学
3 0 1	文学・人文学

<プレゼンテーション項目>

- ① 大学で学びたい研究分野
- ② その分野の魅力

③ その分野を取り巻く社会課題

④ 今後の展望

(6) 評価

聴衆は以下のルーブリックに基づいて評価を行った。その評価をもとに最優秀賞1グループと優秀賞2グループを選出した。

「自己探究」課題研究 発表ルーブリック		発表テーマ			
		評価者	4桁番号: 氏名:		
【発表チェックリスト】 ①スライドは「1スライド1メッセージ」を意識し、シンプルに作られている。 チェック ②原稿を読まずにプレゼンができています。 ③スライドではなく、発表者が主役のプレゼンができています。					
プレゼン内容	項目	評価基準			
		1:★ 努力が必要	2:★★ 目標に一部到達	3:★★★ 目標に到達	4:★★★★ 目標以上に到達
1 オープニング	① OP	オープニングが準備されていない。	オープニングは準備されているが、テーマにあまり興味を持っていない。	テーマについて興味を持っており、オープニングができています。	多くの人の興味を引きつけるオープニングができています。
	② 分野概要	研究分野について、理解しておらず、説明ができていない。	研究分野について具体例を挙げているが、個別事例の紹介に留まり、説明にまとまりがない。	研究分野について複数の具体例を挙げながら、体系的に説明している。	3に加えて、研究分野の時代的な変遷と今後の展望について説明している。
	③ 分野の魅力	研究分野の魅力について、言及していない。	研究分野の魅力について、具体例を挙げているが、単なる紹介に留まり、その意義や可能性について説明できていない。	研究分野の魅力について、具体例を挙げながら、その意義や可能性について説明している。	3に加えて、説明の際に学術資料や客観性の高い資料を用いている。
	④ 分野を取り巻く社会課題	分野を取り巻く社会課題が言及していない。	分野を取り巻く社会課題に言及しているが、断片的な紹介に留まり、発表者の課題意識が感じられない。	分野を取り巻く社会課題に言及しており、その分野で学問を修める目的・意義が明らかである。	3に加えて、説明の際に学術資料や客観性の高い資料を用いている。
3 大学進学 の目的・意義	⑤ 興味関心	大学で学びたいことについて言及していない。	大学で学びたいことについて言及しているが、その意義・目的が不明確である。	大学で学びたいことについて言及しており、その意義・目的が理解できています。	大学で学びたいことについて具体例を挙げて説明しており、その意義・目的が明確である。
	⑥ 自己と学問の関わり	どのような資質・能力を身に付けたいか、明らかにしていない。	どのような資質・能力を身に付けたいか言及しているが、その意義について説明していない。	どのような資質・能力を身に付けたいか言及しており、その意義について説明できている。	どのような資質・能力を身に付けたいか言及しており、その意義について説明して、自分自身や社会の展望について言及している。

3 成果と課題

他のグループの内容を聞くことで、自身の知らない学部分野についても把握することができた。進路選択の一助となっていると感じた。

一方で、発表会が50分で9グループと余裕がなく、質疑応答の時間をとることができなかった。論理的な説明であっても、内容の深堀りができていないグループもあった。発表時間、さらにプレゼンテーションの準備に余裕をもって臨めれば、さらに良い発表会になると感じた。

